

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192500011		
法人名	社会福祉法人 清心会		
事業所名	グループホーム 夢の郷		
所在地	岐阜県安八郡神戸町丈六道村西59番地		
自己評価作成日	平成23年9月01日	評価結果市町村受理日	平成23年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成23年10月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「私たちがあなたのもうひとつの家族です」をスローガンに、職員が一人一人の利用者を熟知し馴染みの関係を構築し、ひとつの家族として関わられるよう常に職員間においては、どんな些細な情報でも交換するように心がけている。行動指針にも掲げているように、常にハートを持って、優しい顔、優しい言葉で接し利用者が安心・安全・安楽に暮らしていけるよう職員が一丸となり支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用者を理解し寄り添いながら一緒に暮らしたい」そんな思いを、管理者や職員が、利用者や家族の悩みや意向を共に話し合い、考えながら、介護計画に活かし個別の支援をしている。その日その日の利用者の状態や希望にあわせ、外出支援をしている。家族の協力を得ながら、馴染みのかかりつけ医の受診を継続し治療や健康維持に努めている。階下にあるデイサービスの利用者と一緒に体を動かし、レクリエーションを楽しみ、地域の馴染みの人と出逢ったり、手紙や電話をしながら、その人らしい暮らしを支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、理念に基づいた「行動指針」を唱和することで理念への理解と共有を図っています。毎月のカンファレンスの中で理念に基づいたケアが実践できているかを話し合っています。	独自の理念「私たちが貴方のもう一つの家族です」を作りあげ、日々のケアの中で、利用者を理解し寄り添いながら実践をしている。しかし毎日唱和するのは本体組織の「企業理念と行動指針」であり、みんなで作りあげたものと混同している。	理念が二つあり混同しないように、独自の理念に基づく、わかりやすい指針又は目標を、みんなで作りあげ実践することを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は孤立することなく地域の一員として地域活動に参加し家族や地域の方々との交流を目指しているが積極的な取り組みが今後の課題と感じている。夏祭りなどの行事を地域にPRし交流していきたい	夏祭り、老人会などに参加している。散歩時や神社参拝などで地域の人と挨拶したり、民生委員や、地域ボランティアの訪問など交流が増えている。今後自治会に加入予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事への参加や高齢者の暮らしに役立つ相談窓口などの活動を目指しているが現段階では今後の課題であると感じています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月の行事報告、計画、利用者の様子を伝え意見を頂きながら、今後のサービスの向上に繋げている。事故などの報告もしている。	避難訓練の様子や避難場所について、事業所の行事など報告している。メンバーから、地域の消防団員の協力をお願いしては、の意見などもあり、活発な意見や質問を検討しながら、サービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や地域の福祉高齢化窓口に事業所の情報を提供しています。特に問題をかかえている事例においては積極的に相談している。	町担当者や包括支援センターへは頻繁に訪問して、利用者の実情・運営上のことなど相談したり情報を提供している。担当者からは電話などで返答があり、お互いに情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進委員会を制定し担当者を中心にカンファレンスなどで話し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいます。事故防止のため安全を確保しながらやむをえずおこなう場合には家族の同意を得て経過記録をしています。	身体拘束・虐待防止の研修を行い全職員は周知している。やむを得ず臥床時のみ柵をしているが、代替や見直しの検討を重ね家族にも同意を得ている。車椅子から普通の椅子に移し食事をしやすくしている。階下への扉はカーテンを引き「工事中」と掲示し事故防止と、安全の工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修を通じて学ぶことで職員の虐待防止への意識を高め、ささいなこと話し合い見逃さないよう努めています。		

グループホーム 夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などを通じて制度について学び、日常生活の自立支援を実践しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご本人やご家族と、管理者もしくは担当者が十分な説明と話し合いをし理解・納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見や要望は面会時などに家族に報告しています。また運営推進会議などで情報交換することで、サービス改善につなげています。	訪問時には常に様子を伝え、意見や苦情をたずねている。玄関に職員の名前や顔写真を掲示したり、意見箱の位置を変えたり、意見等が出しやすい工夫をしている。「夢の郷だより」で情報を届け、意見が聞ける工夫もしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングの中では職員が積極的に意見交換や提案をしており、その内容は運営にも反映されています。	管理者とはお互いに言いやすい関係ができている。ミーティングでは介護方法について、本体組織の勉強会に参加したい、資格を取りたいなど意見を基に、管理者は法人会議に提案し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常時現場にいないため職員個々の把握はできていない。現場との双方向のコミュニケーションを深める必要があるように感じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修には積極的に参加しています。新規職員においてはOJTを導入し実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、研修勉強会などにも出来る限り参加するようにし意見交換など交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族と直接面談し話し合うことで不安や要望を聴き取り把握することで安心を確保するための関係づくりに努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とのコミュニケーションを心がけ、家族思いや不安を受け止めることで関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人との十分な話し合いの時間をもち理解を深めることでその対応に努めています。また家族の相談に応じ必要な場合には他のサービス利用へのアドバイスをしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は「もうひとつの家族」を信条に入居者本人の個々の考え方や習慣を理解し共有することに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には本人の日常生活のようすをお知らせしています。面会時には居室での談話や家族との外出をしていただくことでケアの共有を目指しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はもちろん、親戚や友人などの面会や連絡はいつでも受け入れています。	散歩時に知人の家に一緒に寄って話をしたり、デイのレクリエーションに参加するとともに馴染みの人に出逢える工夫をしている。習い事のお弟子さんの訪問や他の来客にも湯茶でもてなしている。また、手紙の交換をしながら関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の日頃の細やかな配慮で入居者同士が労わりあい和やかな関係を築いていけるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、必要があれば今後の相談情報の提供を積極的に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難な場合には、日頃の気づきや表情の変化から本人の意思が汲み取れるよう職員は習熟しています。	利用者一人ひとりの居室でお茶を飲みながら、ゆっくり聞く時間を作り、意向の把握に努めている。介護者が聞き取りにくい利用者にも、その人に合わせ、表情や口元をみながら声をかけ、時間をかけて理解に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に本人や家族から聞き取りした生活歴を日々のケアに反映し経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや毎月のカンファレンスなどで入居者個々の現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎のモニタリングに加えて必要性に応じて、日常的にアセスメントを実施し介護計画に反映するよう心がけている。ケアの過不足のないようにしている。	評価しやすい介護提供記録に書式を変更して、定期的に利用者の状態に添った見直しを行い、自立に向けた介護計画を作成している。心身状況の変化時には随時本人・家族・医師・関係職員で検討し、状況に合わせた介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画にもとずいて、細かな介護記録をしている。申し送りを密にし職員間で情報の共有をしながら実践に繋げるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外出以外にも職員との買い物、外食、外出などを実施。今後は家族参加型のレクリエーションにも取り組んでいきたい。(家族会なども考えている)		

グループホーム 夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	デイサービスが併設しているため、月に5～6回のボランティアさんなどのレクへの参加など希望者には積極的に声かけしている。また2か月ごとに地域の民生委員さんの訪問もあり交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は、かかりつけ医、事業所の協力医など本人と家族の希望を受け入れて支援しています。	従来のかかりつけ医を定期的に継続受診とし、利用者が安心して生活できるように努めている。管理者は家族・医師間と連携し、随時利用者の日常の様子を知らせながら支援をしている。協力医とも緊急対応の連携ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のささいな変化を見逃さず早期の発見により健康管理につとめています。気づいたことは速やかに看護職に報告し適切な医療へと繋げています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供しています。入院中は面会や家族との連絡により回復状況などの情報交換をすることで安心して退院できるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護職と職員と家族との話し合いを行い地域の医療機関との連携の基、一丸となって支援することに努めています。	事業所の方針を説明し同意を得ている。状態の変化や、重度化については、その都度、家族と話し合いを重ね、方針を共有している。また、看取りについては本人・家族の要望を聞き、事業所としても将来の課題と考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車の到着までの救急処置についてのマニュアルを徹底しています。具体的な場面を想定した話し合いを行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しています。地域にも協力を呼び掛けています。	独自に夜間想定訓練を実施し、反省点についても運営推進会議で報告し意見を検討している。職員は夜間避難口の確認や手順の学習を重ねている。避難用具や食糧備蓄をしている。しかし、地域と連携が得られていない。	運営推進会議では、訓練の報告に留まらず、連携・実践に向けて議題として取り上げ、協力が得られる関係の実現に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重、プライバシーに配慮し、本人本位のさりげないケアを心がけています。	さりげない介助で、本人の自尊心を尊重し他の利用者にも配慮している。ささいなトラブルであっても、職員で原因を話し合いながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定に繋がるよう選択肢を提案し本人の意思を表出する場面をつくっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思や要望を会話の中から聞き出し、その日のコンディションやようすを捉えて相談しながら過ごしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを優先し支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所の畑で職員と一緒に収穫した野菜を食事に取り入れて食事を楽しんでいます。食事の準備なども職員と一緒に無理のないよう取り組んでいます。	利用者が当日の献立を手書きで掲示し、みんなで楽しめる工夫をしている。懐かしい音楽を流し、職員の声かけで会話が弾むよう心配りをしている。おやつを利用者に教わりながら一緒に作り、楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立のもとカロリー計算された食事の提供をしている。個々の状態に適した食事形態や水分の確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに取り組んでいます。就寝前には義歯の適切な管理も行っています。		

グループホーム 夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者はトイレでの排泄を基本としていません。紙パンツやパットの使用に関しては経過を捉え検討しながら支援しています。	自分でトイレに行く人の見守りや、個々のパターンを把握しさりげなく誘導している。夜間はポータブルを使用する人、本人好みの鈴で合図する人など、オムツでの排泄を少なくする支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を記録しています。便秘の時には牛乳やバナナなどを提供することで便秘の改善に取り組んでいます。下剤などの服薬によるコントロールもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に2日ごとに本人の希望または体調に合わせておもに午前中に行っている。職員の日中の配置の都合上、安全確保優先のため何時でもは難しい。	浴室は広く、重度になっても入りやすい浴槽である。利用者ごとに湯を入れ替え、ゆったり楽しめる配慮がある。希望や体調にあわせ入浴日は自由で、シャワーの支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人個人の体調に合わせて、午前、午後を問わず休養して頂いている。なるべく日中を活動的に過ごすことで安眠への働きかけもしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は慎重に管理をしており処方箋をファイルし全職員がチェックし把握できるようにしています。介助が必要な方には適切に介助をしており、副作用についての理解にも全員に周知の徹底に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事を職員の見守り中、一緒にしています。またデイサービスと合流しボランティアのイベントに参加したり外出すると気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近隣の公園に散歩にでかけたり、買い物に同行したり、畑で作物を収穫しています。また外出先で昼食や喫茶をするなど積極的に取り組んでいます。	散歩を兼ね神社参拝が日課になっている。利用者のその日の希望にあわせドライブに出掛け、季節を感じたり、好みの外食・喫茶で楽しんでいる。きざみ食の利用者が、外食時に好みの食事を食べてから、普通食に変わった事例もある。	

グループホーム 夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭類は小口現金としてご家族よりお預かりし金庫管理しています。買い物など必要時にはその都度対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ電話や手紙のやりとりができるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節感あふれる壁飾りがあり、行事の写真などを掲示しています。	職員と一緒に作った飾りで季節感を出し、行事写真を貼って、本人・家族への話題作りの工夫をしている。日当たりのよい窓辺のスペースにテーブル・椅子を置き、家族と利用者のくつろげる場所がある。気になる臭いもなく自然採光で一日の流れを感じて暮らせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングから離れた廊下つきあたりに、見晴らしの良いサンルームがあり独りになりたいとき、気の合う仲間などおしゃべりをするなどできる、空間を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはなるべく使い慣れたものを配置しています。各居室には担当の職員がおり、室内の環境に気を配っています。	自作の小タンスや調度品を置き、鏡台に化粧品を並べ、好みの書籍を置いている。パイプハンガーには季節の服や娘の手づくりのセーターを掛け、職員と一緒に片付けながら、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常時、環境整備を追及しています。気づいたことを話し合い安全な環境づくりに取り組んでいます。(廊下、トイレ、浴室などですりなどの設置)		